

平成 13 年 9 月 19 日

米国同時多発テロに伴う精神科医師等の派遣について

I 経緯

- 米国における同時多発テロ事件の発生により、被災した邦人の家族多数が渡米しており、滞在が長引く場合には、いわゆる心のケアを要することが見込まれる。
- これについて、当省としても現地対策本部（在NY総領事館）等から状況を聴取しつつ、対応について検討してきたが、今週に入り、ニーズが高まりつつあるとの情報を入手。

II 派遣の概要

1. 目的

- ①現地で待機する被災者の家族、現地邦人等の状況及びそれらの方々の医療に関するニーズ、特に精神的ケアに関するものを把握し、外務省が行う邦人保護に対する、厚生労働省の協力量針を定める。
- ②必要に応じて、現地で待機する被災者の家族、現地邦人等の精神的ケアの支援を行う。

* 外務省及び現地対策本部とは連絡・調整済み。

2. 派遣者

9月20日～9月30日の間、ニューヨーク市へ次の者を派遣。

- ①大臣官房国際課国際協力室長 岡本浩二
- ②国立国際医療センター・精神科医長 笠原敏彦

* 出発便 平成 13 年 9 月 20 日 12:00 成田発 JL 006 便